

住友金属工業株式会社 2008 年度第 2 四半期決算説明会(2008 年 10 月 30 日開催)

質疑応答 概要

説明会出席者：専務執行役員 石塚 由成
 経理部長 西浦 新
 広報・IR部長 増田 信昭
 IRグループ長 星 正人

(減産、リスクの織込みに関して)

- Q1. 通期の収益予想にはどのようなリスク要因を織り込んでいるか？
自動車販売が厳しい状況なので、自動車向けの薄板・特殊鋼は影響を受けると思うが？
- A1. 年度予想については、第4四半期を主体に、市況品や建材中心にリスクを織り込みました。薄板の自動車向けについては、自動車生産台数を前年度比では減少となる、1160～1170万台程度という前提で策定しています。
- Q2. 前回の年度見通しから13万トン減産に対して、シームレスパイプは1万トン販売量が増加しているが、薄板で14万トン減産するという想定で良いか？
- A2. 減産の織り込みは、国内向け・輸出向けともに、市況品の薄板とH形鋼等の建材製品が主体となります。
- Q3. 薄板の現在の分野別販売内訳を教えてください。
- A3. 今年度の計画では、国内向け・輸出向け合計で、自動車向が約60%、電機向が約20%程度、その他ひも付きが約10%、店売り等は10%程度という販売構成になっています。

(シームレスパイプに関して)

- Q4. シームレスパイプのOCTG(油井管)汎用品メーカーについては、原油市況の弱含みや需要サイドの資金不足によるプロジェクト延期等による影響が懸念されている。高級品への影響はどうか？
- A4. シームレスパイプについては当初予想通り、在庫調整は上期で終了し、この下期からは増加トレンドになっており、今年度のシームレスパイプ販売量の予想を前回決算時より1万トン上積みしています。
OCTGハイエンド品販売量については、前回予想から5千トン減少していますが、これは納期が来年度上期にずれ込んだためです。原油市況等の当社シームレスパイプ販売への影響は今のところ見られません。

- Q5. 原油価格が60 \$ / バレルも割るかもしれないような状況だが、来年度のシームレスパイプの需給見通しはどうか？ 来年度も、この下期のペースでの販売量は達成できるのか？
- A5. 需要が堅調で、生産能力増強も完了しており、フル生産を前提に受注活動を展開しています。
- エネルギー開発プロジェクトは、リグ建設等のリードタイムも長く、プロジェクトが急に止まることは考えにくいと思います。
- ちなみに原油・天然ガス開発についての損益分岐点については、通常は、原油価格で30~50 \$ 程度、コストが高いところで、60 \$ 程度と推定しています。
- Q6. OCTGマーケットで、グローバルの地域別での引合いや在庫調整等の差異に状況の変化はあるか？
- A6. 特段の変化はありません。
- Q7. ニッケルの影響を除いて考えた、シームレスパイプの価格は上昇基調にあると考えて良いか？
- A7. 今年度の主原料高騰分、約300 \$ / トンについては既に価格転嫁は終了しており、現在は、円高分の転嫁を展開しています。
- Q8. シームレスパイプは、来年度も価格を上げられるのか？
- A8. 私たちはそう考えております。
- Q9. 発電用シームレスパイプの需給状況と今後の需要見通しに変化はあるか？
- A9. ミルはかなり先まで受注で埋まっている状態であり、中期的な需要見通しについても特段の変更はありません。

(原材料価格に関して)

- Q10. 原材料価格と販売改善の前回予想からの変化の内訳は？
- A10. 原材料価格については、バンカーオイルも含めた海上運賃、合金鉄類がそれぞれ年間200億円程度の負担減となっているのが主体です。
- 販売改善については、価格改善が前倒しで進捗していることを織り込みました。
- Q11. 評価益で、前回見通しからマイナス110億円とあるが、これはニッケルの下落が要因か？
- A11. 評価益の減少については、ニッケル以外も含め、原材料市況の下落が影響しています。

Q12. 通期の原材料価格高騰影響はマイナス3970億円とあるが、海上運賃や合金鉄等の市況は、いつ時点の市況を前提としているか？

A12. 海上運賃は現状の極端な下落を前提にはしていませんが、その他については、基本的に足元の市況を前提にしています。

(カンパニー別の状況について)

Q13. 鋼板・建材カンパニーと鋼管カンパニーの年度営業利益見通しの前回予想との差異の内容に為替は影響しているか？

A13. 全社の受取と支払のドルバランスはほぼ均衡していますが、カンパニー別では、鋼板・建材は支払い超、鋼管は受け取り超になっていますので、為替の影響はあります。

Q14. 鋼管カンパニーの営業利益は昨年度対比で減少しているが、減少要因は？

A14. 上期については、原材料高騰を価格転嫁するためのタイムラグ、下期は円高影響が主因と考えています。

Q15. タイムラグや為替の要因を除けばフラットと考えてよいか？

A15. 能力増強投資等を実施しているので、償却費が増加している要因もありますが、基本的な損益実力に変化はありません。

Q16. 交産品カンパニーの売上見通しが減少しているが、その要因と利益へのインパクトは？

A16. 米国クランクシャフト事業について、米国自動車市場の減速を織り込んでいるのが要因です。全社利益への影響はわずかです。

以 上